

## アルミ輸入はスクラップが引き続き増加

アルミ圧延品二次合金地金は小幅減にとどまる  
生産はプラスに

## 橋本健一郎氏リポート②

戸。前月比一六%減、三カ月連続の減少。

## ◆貿易関連指標

## 輸出

財務省貿易統計によれば、十月の輸出はアルミ新地金が前年比二二%減の九五t、二次合金が〇・八%減の一、三七九t、スクラップが一・九%増の二万一、二二七t、アルミ缶が三三・六%減の七、二五五t。

## 輸入

十月の輸入は新地金が前年比三九・七%減の八万四、二七t、二次合金が九・八%減の八万〇、〇二t、スクラップが八・六%増の四九四t、合金スクラップは六八・八%増の四、八五九t。

## ■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の十月の生産・出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・九%増の一六万二、九二七tと一五カ月ぶりプラス。

十月のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比三・一%減の六万八、六九一tと、二二カ月連続マイナス。出荷は同三・五%減の六万八、三四八tと一三カ月連続マイナス。(六面へ続く)



橋本健一郎氏

## ■国際概況

十一月前半は、好調な米経済指標に伴うドル高などの悪材料もあったが、十月の中国竣工

業生産指数が事前予想を上回ったことや、米モデルナの新型コロナウイルスの良好な後期治療結果などを好感してLMEアルミ相場はUP、十一月十五日時点で、一九一八ドル(セツル)と月初価格から二七ドルUPの前半締めとなった。後半は、欧米でのコロナ感染拡大それに伴うロックダウンなどのマイナスマテリアルもあつたが、米ファイザーのワクチン最終結果が暫定値を上回ったこと、英アストラゼネカ開発のワクチンも良好な有効性であったことを好感しLMEアルミ相場はUP、十二月七日 現在、後半スタート価格から一一八五ドルUPの二、〇五一・五ドル。

## ■前月の経済指標

◆前月のドル/円レート (TTS)  
一〇五・七六→一〇五・一九(円)。

## ◆自動車生産台数

国内の自動車メーカー八社によると、十月の自動車生産台数は前年比八・六%増の八〇万五、一五三台。

## ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、十一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比六%増の二五万三、〇六九台。

## ◆新設住宅着工件数

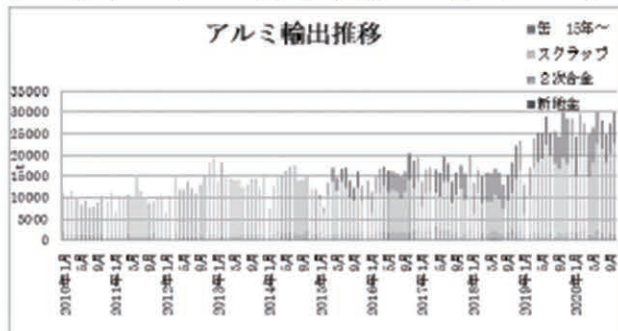
十月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比八・三%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・六%の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万〇、六八五戸。前年同月比八・三%減、一六カ月連続の減少。

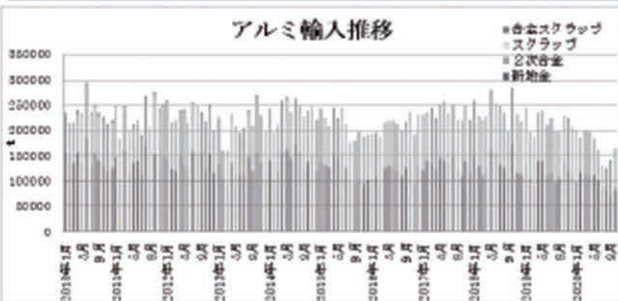
新設住宅着工床面積は五、七三五千㎡。前年同月比一〇・二%減、一五カ月連続の減少。

季節調整済年率換算値では八〇万二千

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移



## スクラップの需給は引き締まりの状況に

(四面より続く)

## ■国内概況まとめ

## 【自動車生産】

国内の自動車メーカー八社によると、十月の自動車生産台数は前年比八・六％増の八〇万五、一五三台。

## 【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、十一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比六％増の二五万三、〇六九台。

このうち、乗用車六・四％増、貨物四％増、バス三七・三％減。

## 【住宅着工戸数】

十月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比八・三％の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・六％の減少となった。

## 【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の十月の生産・出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・九％増の一六万二、九二七tと一五カ月前よりプラス。

このうち、板類は九万八、八九二tで五・六％増と、一五カ月前よりプラス。押出類は六万四、〇三五tで五・七％減と、一三カ月前より連続マイナス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

十月のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比三・一％減の六万八、六九二tと、二二カ月前連続マイナス。出荷は三・五％減の六万八、三四八tと一三カ月前連続マイナス。

足元は高価な輸入ADCの代替需要も重なり、国内合金メーカー、ベースメタルメーカーも繁忙をきわめており、十一月の生産統計では二三カ月前よりプラスになることが予想される。しかしながら、各社とも生産能力には限界があるため大幅なプラスとはならないと思う。

## 【輸出】

十月の輸出はアルミ新地金が前年比二・三％減の九五t、二次合金が〇・八％減の一、三九九t、スクラップが一九・六％増の二万二、二七t、アルミ缶が三三・六％減の七、二五五t。

## 【輸入】

十月の輸入はアルミ新地金が前年比三九・七％減の八万四、一一七t、二次合金が九・八％減の八万〇、〇一七t、スクラップが八・六％増の四九四t、合金スクラップ

が六八・八％増の四、八五九t。

## 【見通し】

・十月の自動車生産が前年比八・六％増。十一月国内販売台数が同六％増。生産・販売ともに増加。今後を期待。

・日本アルミニウム協会発表の圧延品の十月の生産・出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・九％増の一六万二、九二七tと一五カ月前よりプラス。

今後更にプラスが続くかの動向に注視。

・十月のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比三・一％減の六万八、六九二tと、二二カ月前連続マイナス。出荷は同三・五％減の六万八、三四八tと、一三カ月前連続マイナス。

足元は高価な輸入ADCの代替需要も重なり、国内合金メーカー、ベースメタルメーカーも繁忙をきわめており、十一月の生産統計では二三カ月前よりプラスになることが予想される。しかしながら、各社とも生産能力には限界があるため大幅なプラスとはならない。

・アルミ輸出は外需が比較的好調なことを受けてスクラップが大幅増。

・アルミ輸入は円高による輸入塊の高騰からスクラップが増加。

## 【スクラップ需給予想】

流通在庫はLME価格が二、〇〇〇ドル突破と一〇〇ドル上昇していることや、発生減から前月同様に売り惜しみモード。

需要面に関しては、米中経済が回復してきたことによる輸入塊玉価格の上昇から、国内モノにも引き合いあり引き締めモード。

## 【LME・為替予想】

今月は欧米のコロナワクチン問題、欧米の経済対策の動向に左右される。

欧米の景気対策に関しては感染拡大による景気の悪化をフォローする形で出される可能性が高く、景気後退が一方的に進む可能性は低い。

コロナワクチンの動向に関しては、ロシア以外のワクチンは臨床実験済みであり、今週から英国で開始されることから感染拡大の歯止めがかかるのではないかと。

これらを踏まえた十二月のアルミ価格は二、〇〇〇〜二、二〇〇ドル(セツル)との予想。ドル円値は一〇四円〜一〇六円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては、五円高から一〇円高程度と予測している。